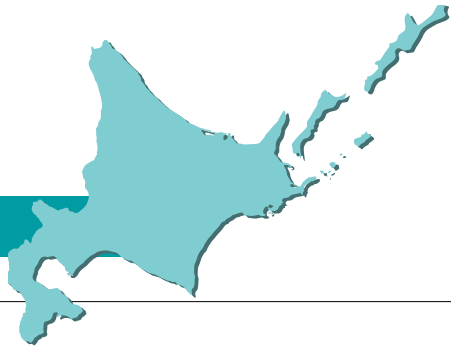
4月の道内景況　情報連絡員レポート

足踏み状態続く　非製造業で景況、収益状況が一段の悪化

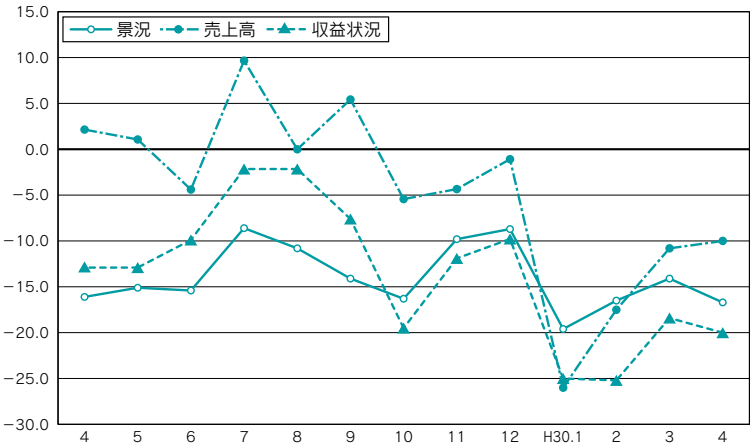


概　況

主要DI値の推移では、「売上高」で若干改善したが、「景況」「収益状況」が悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「景況」「収益状況」などで若干改善したが、「売上高」「販売価格」「取引条件」が悪化した。非製造業では「売上高」「販売価格」「資金繰り」「雇用人員」で若干改善したが、「景況」「収益状況」が悪化した。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
業界の景況	△14.1	△16.7	△2.5 ↘	△12.5	△9.4	3.1 ↗	△15.0	△20.7	△5.7 ↘
売上高	△10.9	△9.0	1.9 ↗	△3.1	△6.3	△3.1 ↘	△15.0	△10.5	4.5 ↗
収益状況	△18.5	△21.1	△2.6 ↘	△15.6	△9.4	6.3 ↗	△20.0	△27.6	△7.6 ↘
販売価格	5.4	7.8	2.3 ↗	6.3	3.1	△3.1 ↘	5.0	10.3	5.3 ↗
取引条件	△5.4	△7.8	△2.3 ↘	0.0	△6.3	△6.3 ↘	△8.3	△8.6	△0.3 ↘
資金繰り	△7.6	△4.4	3.2 ↗	△9.4	△6.3	3.1 ↗	△6.7	△3.4	3.2 ↗
雇用人員	△12.0	△8.9	3.1 ↗	△6.3	△3.1	3.1 ↗	△15.0	△12.1	2.9 ↗

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・原材料価格が少しずつ上がり始めたため、取引状況が悪化し、在庫数量も減少した。結果として収益状況は悪化し、業界の景況も悪化した。
（水産食料品／全道）
・4月出荷分の小麦粉が値上げとなったが、販売価格への転嫁ができない。小麦粉の値上げは少額だが送料、燃料等の値上げと合わせると大変苦しい状態。量販店の適正価格での販売を望んでいる。（めん類／全道）
・4月は食品をはじめ、様々な物・サービスの値上げがあり、消費動向にもやや慎重さが見られ、売上は横ばい状態であった。（飲料／全道）
・原木在庫は昨年比50％まで落ちているが、少ない在庫で何とか稼働を続けている。
受注量は比較的安定的に確保できている。（一般製材／幕別）
・観光客、特に外国人が来道しているがお土産品類が（高額品以外）やや減少している傾向にあるので、内装箱・外装箱の当組合員にも若干影響がある。
（パルプ・紙・紙加工品製造業／全道）
・工事量が減少傾向にあるが、大きな変化はなかった。原石不足が顕著になりつつある。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・4月度の出荷数量、売上高ともに全品種で前年対比増加した。また、受注物件は近年になく好調である。（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・自動車はやや良い。特殊鋳鋼品もやや良い。水道資材はやや悪い。建機・農機部品・一般鋳物は良い。マンホール、上下水道管はやや悪いが、他は持ち直し、特に機械鋳物は良くなっている。副資材は中国の輸出規制を背景に高値で推移しており、利益を圧迫している。（銑鉄鋳物／全道）
・室蘭製作所は新造船建造撤退後は修繕船、函館造船所ブロック製作、橋梁陸機の3部門でスタートしたが、受注量の低迷が続き、過剰人員が発生し、他造船所等に出張で対応した。現在も仕事量不足が続いている。今年も厳しい状況が予想されるが、受注拡大に向け、協力会一丸となって品質向上とコスト削減に取り組んでいる。（金属製品／室蘭）
・ようやく雪も溶け、本格的な製造が始まった。建築に関わる製品を作る企業は、出足は遅いながらも順調に動き始め、4月以降の受注も入っているようだ。その他の機械金属製造業では、ほぼ昨年度と同様の受注量を確保し、製造を続けている。（金属機械工作／江別）
・新たな年度がスタートし、今年度の景気動向が気になる。全体的に言えば昨年好調であったと評されているが、当業界の小売は順調とは言えず、個人消費拡大における税制改革を望んでいる。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・当月においては取引先である小売業の業績が悪く、やや売上減少し、前年にいたらなかった。価格面では引き続き低下傾向にはあるが、やや前年並みで商況はなかなか好転するに至ってない。（菓子／全道）
・原料価格の高騰と製品価格を値下げせざるえなくなった。（木材／全道）
・野菜の価格高騰がようやく収まり、食料品が順調に伸びたのと、燃料系の売上げが燃料単価の値上がりと需要増により増加し、各種料金払いが順調であったので、売上増加となった。（各種商品／旭川）
・高値続きだった野菜類の価格は、特に葉物類は大変買いやすい値段に落ち着いている。魚類は安定した価格をキープしている。ただ4月から他の食品等も徐々に値上げとなっており、依然厳しい状況。また、高齢化に伴う買物客の年々の減少はかなり深刻。客は配達してくれるスーパーなどに行くようになっている。（各種商品／小樽）
・4月取扱高は、前年比101％の状況。
4月は気温が少し上がり天候に恵まれ、桜の開花が少し早まったと思われるが、観光客は増加していない。駅前商店街はホテル周辺に少し活気があるが、全体的には人通りが少ない。（各種商品／苫小牧）
・各組合員ともに、全体的にはほぼ前年並みの売上を達成することができたとのこと。しかし、全国的には街角景気は先行き改善等の報道があるが、前月同様、釧根地区全体での景況感は厳しい状況が続いているとの声が聞かれた。
（各種商品／釧路）
・原油価格は、トランプ政権のシリア攻撃、対イラン政策が地政学的リスクへの警戒心をあおり、2014年11月以来の1バーレル70ドル台となり、更に円安も加わり、元売各社の仕切価格は4月に入り毎週値上げ改定となり、需要期が過ぎた灯油以外は6円を超す上昇となった。
売上高については、販売価格が前年に比べ各油種とも9％前後の高値となっているため増加しているが、売上数量はほぼ変動なく、逆に大型連休を控え仕切価格高騰分を転嫁出来ず、収益状況は悪化している。（燃料小売業／稚内）
・自転車は4月が最盛期であるが、新車（一般車）の売り上げが良くない。中古車とスポーツ車、電動車がそこそこ伸びている。貧富の格差を感じる。4月に北海道自転車条例が施行されたことと、自転車のひき逃げ事故の報道で保険が附帯されているTS点検が伸びているようだ。（自転車・自動車／全道）
・売上高は対前年同月比105.5％の実績。インスタントコーヒー等の嗜好品の売れ行きが好調に推移した。大口先の注文により在庫数量も増加。
（野菜・果実／札幌）
・今月の前半は3月に引き続き低迷が続いていたが、後半から連休に向けて少しずつ上昇してきた。連休に向け、子供縁日を開催。家族連れの集客を期待したい。（鮮魚／釧路）
・景気の好転が一部に散見されるものの、これまでの景気低迷と消費の節約志向が続く限り、ガソリンを中心とした石油製品の販売量の伸びは期待出来ないとみている事業者がほとんどである。特にリース案件などでは赤字が解消する見通しが立たないケースも見受けられる。さらに、規制強化の問題など、多くのSSが厳しい決断を迫られている案件もあり、これまで同様、取り巻く環境は悪化傾向にある。（燃料／全道）
・4月の道内家電販売は雪解け後の天候不順により、季節商品が全般的に低調となった。エアコンは昨年夏の高温の影響もあり関心は高いが、気温が上がらず出足は鈍い。4Kテレビは12月1日の新4K8K衛星放送開始に向け関心は高まっているが、商品が揃わず実需にまでは結び付いていない。しかし、2011年のデジタル化から7年経過し、そろそろ買い替え需要が本格化するものと期待されている。有機ELテレビが4メーカーから発売され、台数は全体の2％程度と少ないが、金額が伸び業界に活気をもたらしている。
（電気機械器具／全道）
・新年度を迎えた道内中小のシステム受託開発IT企業の多くは、今年も堅調な業績を予測しているが、相変わらずの深刻な人材不足や離職防止とそれに伴う人件費コストの上昇による利益確保に頭を悩ます経営者が多い。人件費の上昇は企業が負担する社会保険料も増える仕組みのため、賃上げは給与以外の支払いも増えて利益圧迫を意味する。発注先との受託単金の値上げ交渉が業績確保のベースとなるため、今年度も道内中小IT企業経営者の重点施策になっている。
道内中小IT企業にとっての人材の質と量の確保は企業成長のバロメーターであるが、技術系人材の採用は、もはやIT企業間に限らず業種を問わない獲得競争となっている。新卒採用が難しい状況なので通年採用は当たり前で、いかに中途採用者を確保するかだけでなく、テレワークやリモートワークを活用した女性の活用、契約社員のシニア技術者を増員するIT企業が増加している。
（ソフトウェア／全道）
・4月の宿泊入込数は約21,202人、昨年度より295人増加。観光客は国内数が横ばい、インバウンドは増加傾向が続いている。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・官民ともに新たな動きは少ない。
年末から年度末は追い込みで繁忙であったが、現在の工事は比較的順調である。しかし技術者及び労働者不足が今後夏場にかけてさらに深刻化することは否めない。特に新卒者の雇用教育を長期計画で推し進めていかなければならない。（電気工事／全道）
・業界では、引き続き材料仕入れ単価は上昇傾向にある。
技能者の高年齢化と若年労働者の入職が思わしくないため、人材不足は解消に向かわない状況にある。（左官工事／札幌）
・組合員の業況
新年度に入り公共事業の発注があり、また民間の工事も適度にあることから、上半期の受注機会は前年並みと見込んでいる。
地域の実情
4月に入り雪解けも進み、暖かな日が続くと商店街や飲食店に活気が出ている。連休明けには本格的に建設工事が施工されることとなるが、いまだ油脂類の価格が高値で推移している状況。建設資材の変動もあり得ることから今後の推移を見守りたい。（管工事／名寄）
・宅配等に関しては昨年のヤマト運輸からの発信が大きく影響し配送単価が上向いているが、札幌圏の軽運送業は赤帽のような協同組合が複数あり、また、無所属で運送業（協同組合脱退者を含む）を生業としている個人事業主も多いことから運送料金のダンピングすれすれの請負を見聞きする。また、大手を筆頭に下請けの連鎖により末端の配送を行う運送業者がかねてより発生している。
（一般貨物自動車運送／全道）
・5月連休明けまでは例年動きは鈍い。しかし高速道工事に絡むダンプは忙しい。また、観光バスについても動きは鈍く感じる。
（一般貨物自動車運送／小樽）
・（荷動きについて）
馬鈴薯は4月に入り、前年以上の出荷量となった。玉葱も市況悪化が続くが、昨年と同程度まで回復していると思われる。
一般カーゴについては、引っ越し荷物での混乱が予想されたが人手不足や拘束時間など引越業者がセーブしていたこともあり大きな混乱にはならなかった模様。他の貨物は本州からが回復傾向。
域内輸送はGW前の飲料等の輸送が例年以上に活発化している様子。
（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比4.7％減少
乗務員数は前年同月比6.4％減少
3月分チケット取扱高は前年同月比6.3％減少（一般乗用旅客／旭川）